

英文論文の和文要旨

谷村好洋¹・嶋田智恵子²・小沢広和³・木元克典⁴・田中裕一郎⁵・伊東 宏⁶：津軽海峡における珪藻群集の季節変動と細胞サイズ

津軽海峡から月毎に採取されたプランクトンネット試料中の珪藻とその捕食者であるカイアシ類の群集を解析した。珪藻とカイアシ類の群集組成（種の相対頻度）から非計量多元尺度構成法（NMDS）によってスコアを計算し、*Chaetoceros debilis*, *Chaetoceros radicans*, *Chaetoceros socialis* の季節ブルームに相当する3つの珪藻群集、*Bacteriastrum hyalinum* と *Chaetoceros lorenzianus* を多産し多様な種からなる群集、*Coscinodiscus wailesii* を含み、おもに細胞サイズの大きい珪藻からなる群集を識別した。大きい細胞サイズの珪藻群集に伴って、珪藻の捕食者であり、おもに *Pseudocalanus* spp. と *Clausocalanus* spp. からなる植食性カイアシ類が多産した。この珪藻群集の出現には、*C. wailesii* の偏った増殖とカイアシ類による小さい珪藻の捕食のいずれか一方、あるいはその両方がかかわり、細胞サイズの大きい珪藻が相対的に優占したと解釈した。

(¹〒305-0005 つくば市天久保4-1-1 国立科学博物館地学研究部, ²〒010-8502 秋田市手形字大沢28-2 秋田大学国際資源学部附属鉱業博物館, 〒305-8567 つくば市東1-1-1 産業技術総合研究所地質情報研究部門, ³〒252-0880 藤沢市亀井野1866 日本大学生物資源科学部地球科学研究室, ⁴ 〒247-0061 横須賀市夏島町2-15 海洋研究開発機構地球環境観測研究開発センター, ⁵〒305-8567 つくば市東1-1-1 産業技術総合研究所地質情報研究部門, ⁶ 〒214-0038 川崎市多摩区生田8-11-11 水土舎研究II部)

田中宏之¹・北林栄一²・南雲 保³：大分県西部の更新世堆積物から見出された新種 *Stephanodiscus hitaensis* sp. nov.

大分県日田市大山地域に分布する前-中期更新世の堆積物である大山層から *Stephanodiscus* の1分類群が見出された。本種は、殻直径37-75µm。殻面は同心円状に2重に波打ち、束線は殻の中心では1列であるが、殻面/殻套境界では2列~3列（稀に4列）になり、10µmに5-7本である。針は太くて先端が丸く、上半部は内側が平らになり、毎2（稀に3）本ごとの殻面/殻套境界の間束線上に所在する。殻面有機突起の1個は殻の中心にあり、他はそれを取り巻くように、殻の中心からみて最初に外側に向かった波打ちの突出した部分に所在する。時折、いくつかの有機突起が両者の間に散在することがある。付随孔は通常2個であるが、しばしば3個も観察された。殻套有機突起外側開口は装飾のある短管で、針の下に所在し、内側では3個の付随孔を伴う。唇状突起は2（しばしば3）個で間束線末端の殻面/殻套境界にあり、外側開口は外管を伴う。これらのうち特に殻面有機突起の分布、針の形態が特徴的であり、この組み合わせが他に見受けられないことから新種 *Stephanodiscus hitaensis* H. Tanaka & Nagumo sp. nov. として提案する。

(¹ 前橋珪藻研究所, 〒371-0823 群馬県前橋市川曲町57-3, ² 〒879-4403 大分県玖珠郡玖珠町帆足281-2, ³ 日本歯科大学生物学教室, 〒102-8159 東京都千代田区富士見1-9-20)

日本珪藻学会賛助会員

パリノ・サーヴェイ株式会社

〒375-0011 群馬県藤岡市岡之郷字戸崎 559-3

☎ 0274-42-8129

日本ケイソウ土建材株式会社

〒183-0011 東京都府中市白糸台 4-15-3

☎ 042-363-7320